

四国三波川変成帯での地質巡検（2024年7月）

*名古屋大学岩鉤研と合同で開催，広島大からは岡崎研と片山研が参加



講談社ブルーバックスより、片山教授が執筆した本が出版



かたやまいくお
1975年東京都生

1995年東京都生まれ。2003年東京工業大学大学院地球惑星科学専攻博士課程修了。博士卒業。日本学術振興会特別研究員「米・エイエル」大研究員などを経て、現在、広島大学大学院先進理工系科学研究科地球惑星・宇宙学・プラズマ教授。専門は岩石・レオライト、地球内部の物質循環を中心に研究。日本鉱物学協会研究奨励賞、日本地質学大賞山推賞、工下トシノブ賞、日本地球惑星科学連合会西田賞などを受賞。趣味は散歩。

BLUE BACKS

水の惑星 「地球」

46億年の大循環から地球をみる

Katayama Ikuo
片山郁夫



最新の地球科学が
明らかにした、衝撃の事実——。
大量の海水が、マントルに吸収されている!?

6億年後、
「海」が消える……。



水の惑星「地球」

45億年の大循環から地球をみる

片山郁夫

B2276
講談社

ISBN 978-4-06-537559-4
C0000 ¥1000F

定價: 本體1000円 (税別)



KODANSHA

地球の誕生からずっと存在してきた「海」

水はどこからもたらされたのか？

なぜ、太陽系が地球だけに「海」があるのか？

地球という惑星の特徴を決定づけている、重要な存在が「水」——。

プレートテクトニクスの開始にも、

生命の誕生にも、「水」が関わっていた。

「水」は地球の表面だけではなく、

プレートの沈み込みとともに地球内部に取り込まれ、

火山の噴火とともに表層へ戻ってくる。

そんな46億年続いてきた大循環に、いま大きな異変が起きている。

最新の地球科学が描き出す「海の未来」——

「海」という身近な存在が
消える日が来る!?

- プレートテクトニクスには「水」が重要
- 生命の誕生と進化の舞台は「海」
- 炭素循環における最大のリザーバーは「海」
- 海水準の上昇、酸性化……温暖化によって変わっていく「海」
- マントルに大量の海水が吸収されている
- 6億年後に「海」は消失する可能性がある?

さらにこの線を広げるために、次のようなブルームバーグがあります。
 海はどのようにして出来たのか？（ブルームバーグ・日040） 壮大なケールの地球進化史
 地球はなぜ水でできたのか？（ブルームバーグ・日041） マントル起源・超大陸の謎
 地球は特別な場所なのか？（ブルームバーグ・日042） マルチ対流・分布領域・かき込み
 地球は特別な場所なのか？（ブルームバーグ・日043） 地球外生命・迫る系外惑星の科学
 地球の中心（ブルームバーグ・日044） 何が起きているのか？何が起きているのか？

ブルーバックス

日本最大級、科学を楽しむウェブサイト

- 書き下ろしの科学読み物や編集部員のニュースなど、サイエンスファン必見のコンテンツ満載。
- 科学を応援するクラウドファンディング「ブルーバックスアウトルーチ」情報も

<https://bluebacks.kodansha.co.jp>

